



ハッピーマネー教室 お金との付き合い方で社会を変える

講演：三和 裕美子 氏

レポーター：赤堀 薫里

プロフィール

三和裕美子(みわゆみこ)氏

明治大学商学部 教授

大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程単位取得退学後、明治大学商学部助手、同専任講師、同助教授、2005年より同教授、現在に至る。博士(商学)。ミシガン大学客員教授(2006年～2008年)機関投資家とコーポレート・ガバナンス、機関投資家のESG投資、経済のグローバル化と経済格差、大企業の社会的責任などを研究テーマとしている。近年、「愛ある金融＝温かいお金のまわる社会」を目指す研究・活動を行っている。

今日は、コロナが起きてからの社会の話と、ぜひみんなに読んでもらいたい本と、見てもらいたい映画の話も含めながらお話をしていきたいと思えます。



コロナが起きてからの社会

ある会社が「コロナが起きてからどんな社会になっていこう」というアンケートをとったので、ここで紹介します。特徴的なことは、小学生の子たちも含め非常に若い方の、寄付をしたいという答えが増えています。20代だと投資を始めたい。30代だと貯蓄をしたい。そして、エコでエシカルなソーシャルグッド消費が当たり前。また、ソーシャルグッドファンドが世界的に流行しています。20代の子たちもここに寄付をするということをやっているようです。

例えば、自分がよく行くレストランが、コロナの影響で非常事態宣言が出て開店できない。閉めなければいけないという事態がありました。そこで、いつも通っている人たちが寄付をしてあげる。そのお返しにそのレストランのレシピを、寄付してくれた人みんなにあげて、お家で作ってください





長期投資仲間通信「インベストライフ」

というやりとりがありました。それが寄付型のソーシャルグッドファンドと呼ばれる一つの動きなのかなと。そういう関心がこっち側に向いているということを示しました。

読んでもらいたい本

ミハエル・エンデの「モモ」をぜひ読んでみてください。この本は、人々から時間を盗んでしまう、時間貯蓄銀行から来た灰色の男たちが、私たち人間から時間を盗んでしまうというファンタジー話です。その灰色の男たちが「あなたは人生を無駄にしてきたから、もっと時間を節約して、余った時間を銀行に預ければ、利子が利子を生んで何十倍にも増えます。長生きできるよ」と言いました。

それを聞いて人々は、長生きしたいと、一生懸命自分の時間を節約して貯蓄銀行に預けていきます。すると、だんだん怒りっぽくなり、今まで余裕があって心が平和だったのに、どんどんギズギズしてきました。騙されたわけです。それを子どものモモが取り返していくというお話です。結果はどうなったのか是非読んでみて下さい。

この「モモ」は、今のお金のシステムに対する疑問を問うているのです。今のお金のシステムではみんなが幸せになっていない。そうでないお金の可能性、使い方、社会をみんな考えてみようということで、モモを書いたそうです。

複利のお話です。お金がお金を生む仕組みです。ある人が西暦元年、2020年前に1マルクを、年間5%で銀行に預けると、太陽が4個分の金の塊と同じくらい増えます。一方ある人が1日8時間くらい働いたお金を全部貯めると、金の延べ棒が1.5m分になるという違いがあります。銀行に預けると太陽4個分の大きさになるのに、銀行に預けないと金の延べ棒1.5mになる。この差は何か？

一つの考え方は、銀行に預けるか、運用するかという差です。この差は、お金が増えていく、そうでないという差につながっていきます。温かいお金の回し方の反対側には、冷たいお金の回し方があります。簡単に言うと、温かいお金の回し方は、金の延べ棒1.5m側。自分が働いてお金をもらう、何か交換する時に使うお金。冷たいお金は、運用することで勝手に増えていく。二つの使い方があります。

一つのお金の可能性として、今日紹介するのは、ビーチマネーです。これは、地域通貨と呼ばれるものです。ガラスの瓶が海の中で丸くなり、いろいろな色のきれいなガラスが海外沿いに落ちていきます。きれいだけど海の生き物にとっては、とても有害です。それを拾って、その地域のお店で使えるお金として使うことができます。海もきれいになるし、お金を使う私たちもとっても幸せな気持ちになれます。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

見てもらいたい映画

もう一つの紹介は、「殿、利息でござる」という映画です。これは江戸時代に実際にあった仙台藩のお話です。宿場町がどんどん衰えていきます。藩に納めている税金が高くて、夜逃げしてしまう人がたくさん増えていきます。そこで地域の人たちが何とかならないのかと考えたのが利息です。お金がお金を増やす世界。冷たいお金の世界を利用して、みんなで幸せになろうという取り組みをしました。お殿様にみんなでお金を貸し付ける。地域みんながお金を出し合い、銀行の役割を担いました。

今でいうと、お金を集める仕組みであるファンド。お金を出して、それをお殿様に貸すと、利息が返ってくる。その利息をみんなの町興しのために使うというお話です。このお金の使い方は、現代版のソーシャルグッドファンドです。江戸時代から私たち日本人はやっていました。実際に成功して何年も続いたそうです。ほっておくと、みんながあまり幸せを感じられなくなる世界になりがちなこの仕組みを上手に温かく使っていくことで、地域の人が幸せになるというお話です。

お金の使い方には、自分のために使うお金と、自分以外のために使うお金の分けられます。自分のために使うお金はもちろん嬉しい。その他に、このお金を使ったらどんな笑顔が見られるかなということを考えてみるといいかもしれません。お金は使い方によって、自分を笑顔にすることもできるし、周りの家族、友人と、身近な人から、遠い国のお友達までいろいろな人を笑顔にできる使い方できます。自分もいいことをしたかなと思うと心が豊かになります。みんなが笑顔になることで心がほっとして嬉しくなりますね。

(文責:FIWA)